

VMware vCloud Air Disaster Recovery

Q：VMware vCloud Air Disaster Recovery（災害復旧サービス）について教えてください

A：VMware vCloud® Air™ Disaster Recovery は、Recovery-as-a-Service（RaaS：サービスとしてのリカバリ）ソリューションです。VMware vSphere® のお客様はこれを利用して、社内のビジネス ワークロードやミッション クリティカルなワークロードを保護し、障害発生時にはこれらのワークロードをクラウド上でリカバリできます。

主な特徴は次のとおりです。

- セルフサービスによる仮想マシン単位のディザスタ リカバリ保護、フェイルオーバー、およびフェイルバック ワークフロー
- RPO（目標復旧ポイント）を 15 分から 24 時間の間で設定
- 複数の時点のスナップショットを作成して、以前の状態に復元
- vRealize™ Orchestrator™ プラグインを使用してフェイルオーバー ワークフロー プランを実行できる運用手順書を作成
- 柔軟なクラウド コンピューティングとストレージ キャパシティ
- オフラインでのデータ移行のサポート
- 回数制限のないフェイルオーバーのテスト

Q：サービスを利用するには、vCloud Air のサブスクリプションを契約する必要がありますか

A：いいえ。このサービスは、vCloud Air の基本契約とは独立して提供され、VMware vSphere を利用しているすべてのお客様を対象としています。VMware の Infrastructure-as-a-Service（IaaS：サービスとしてのインフラストラクチャ）のサブスクリプションをお持ちでなくてもご利用いただけます。お客様の社内環境でサービスを適切に使用するために、バージョンに関する要件があります。バージョンの要件については、このドキュメントの別の質問を参照してください。

Q：vCloud Air Disaster Recovery は、基本サービスとアドオンサービスのどちらのサービスとして提供されるのですか

A：vCloud Air Disaster Recovery は、vCloud Air が提供する基本サービスの 1 つです。vCloud Air のサブスクリプション契約者のほかに、RaaS にのみ関心がある vSphere のお客様にも対応するために開発されたサービスです。

Q：Dedicated Cloud（専有型クラウドサービス）または Virtual Private Cloud（共有型クラウドサービス）のいずれか（または両方）を購入済みの場合、これらのクラウドへのデータのレプリケーションとリカバリは可能ですか

A：いいえ。Dedicated Cloud または Virtual Private Cloud のサブスクリプションをすでにご契約済みで、vCloud Air Disaster Recovery に関心をお持ちのお客様は、このサービスのサブスクリプションを個別にご契約いただく必要があります。また、データのレプリケーションと関連するリカバリ サービスは、このサービス用にプロビジョニングされているディザスタ リカバリ用仮想データセンターでのみご利用いただけます。

Q：サービスの一環として VMware vCenter Site Recovery Manager はサポートされますか

A：いいえ。VMware vCenter™ Site Recovery Manager™ の最新リリース（5.x）と vCloud Air Disaster Recovery との間に相互運用性はありません。

Q：vCloud Air Disaster Recovery を利用するための条件は何ですか

A：このサービスには、お客様の社内環境から vCloud Air にわたるさまざまなソフトウェア要素が含まれます。すべての機能を利用するための最小構成には次のものが含まれます。

- VMware vSphere 5.5 以降 [社内]
- VMware vCenter 5.5 以降 [社内]
- VMware vSphere Replication™ 6.0 [社内]
- ディザスタ リカバリ用仮想データセンター（DR-VDC）[vCloud Air]
- お客様の社内環境と vCloud Air の間のインターネット接続

Q：vCloud Air Disaster Recovery と、vCloud Air の Virtual Private Cloud や Dedicated Cloud との違いを教えてください

A：vCloud Air Disaster Recovery は、Virtual Private Cloud インスタンスと同じマルチテナント アーキテクチャですが、2 つの大きな違いがあります。それは、アクティブ コンピューティング キャパシティの代わりにウォーム キャパシティを使用すること、またストレージの単位が 2 TB ではなく 1 TB であることです。

Q：vSphere を導入済みで、vSphere Replication をすでに使用しています。これを vCloud Air Disaster Recovery で利用することはできますか

A：はい。vCloud Air Disaster Recovery に必要な vSphere Replication アプライアンスは、VMware vSphere Essentials Plus Kit および VMware vSphere の上位エディション、VMware vSphere with Operations Management™ エディション、VMware vCloud Suite® エディションに付属のアプライアンスと同じです。まだこのアプライアンスにアクセスしていない場合、vCloud Air Disaster Recovery を購入後に、ダウンロードリンクが届きます。

Q：このサービスに関連するソフトウェア用に、追加のライセンスコストは必要ですか

A：いいえ。専用の VMware vSphere Replication バージョンは vCloud Air Disaster Recovery のサブスクリプションに含まれており、特別なライセンスを追加購入する必要はありません。

Q：vCloud Air Disaster Recovery のパッケージと購入方法について教えてください

A：vCloud Air Disaster Recovery は、サブスクリプションベースのサービスで、サブスクリプション契約期間は 1 か月、3 か月、12 か月、24 か月、36 か月のいずれかをお選びいただけます。また、レプリケーションとフェイルオーバー用に予約するリソースキャパシティ（コンピューティング、ストレージ、帯域幅）の量に応じたパッケージが用意されています。基本のサブスクリプション（一定量のコンピューティング、ストレージ、帯域幅）の購入後に、ディザスタ リカバリ要件を満たすために必要であれば追加のアドオンをオプションでご購入いただけます。

Q：vCloud Air Disaster Recovery で提供されるサービスのサービスレベルについて教えてください

A：目標復旧ポイント（RPO）は、15 分から 24 時間の範囲で、仮想マシンごとにセルフサービスで設定できます（実際のデータ変更頻度と帯域幅によって異なる）。目標復旧時間（RTO）は、vCloud Air のサービスレベル アグリーメント（SLA）に従って 4 時間以内に設定されています。

Q：vCloud Air Disaster Recovery の基本サブスクリプションでは、テスト フェイルオーバーを何回行うことができますか

A：サブスクリプション契約期間中は、何度でもテストを実行できます。テスト フェイルオーバーは、VMware のサポートを通じてスケジュールを設定して調整する必要があり、テストごとのランタイム リースは 7 日間です。

Q：障害が発生し、vCloud Air 内の vCloud Air Disaster Recovery 環境にフェイルオーバーしたあと、フェイルバックまたは別の場所に移行するまでにどの程度運用を続けることができますか

A：お客様はテスト フェイルオーバーを 7 日間実行できます。また、フェイルバックするまで、Disaster Recovery インスタンスを 30 日間アクティブに実行できます。つまり、30 日間は vCloud Air Disaster Recovery 環境で、ペナルティなしで運用を継続できます。30 日間を超えると、1 日ごとに使用料が課せられます。仮想マシンはプライマリ データセンター内の仮想マシンにいつでもフェイルバックできます。また、必要に応じて、vCloud Air が提供する別のサービスに仮想マシンを移行することもできます。

Q：障害が発生した場合、追加料金を支払う必要がありますか

A：いいえ。追加料金は発生しません。

Q：このサービスで、フェイルバックはどのようにサポートされますか

A：フェイルバックは、逆方向のレプリケーションによって実行されます。クラウドへのレプリケーションを有効にする場合と同じ手順に従って、クラウドから社内のデータセンターに簡単にレプリケーションを実行し、制御されたフェイルオーバーを開始して、社内でのワークロードの実行を再開できます。

Q：複数の時点にフェイルオーバーできますか

A：はい。複数の時点に対応した機能により、最大 24 個の以前のレプリケーション ポイントにフェイルバックできます。たとえば、目標復旧ポイント（RPO）が 24 時間に設定されている場合、最大 24 日前までフェイルバックできます。これは、ワークロードでデータの破損が発生し、クラウドで以前の時点に戻って実行を再開する必要がある場合に非常に便利です。

Q：ディザスタ リカバリの仮想マシンのフェイルオーバー順序を自動化することはできますか

A：はい。vRealize Orchestrator を活用すれば、プラグインをインストールしてワークフローを作成し、完全なフェイルオーバーを自動化できます。たとえば、特定の順序で仮想マシンを起動するシンプルなワークフローを作成することもできます。これは、複数の階層からなるアプリケーション ワークロードを保護する場合に非常に便利です。

Q：基本サブスクリプションでは拡張に制限はありますか

A：vCloud Air Disaster Recovery の基本サブスクリプションでは、仮想マシンを最大 500 台まで拡張できます。

Q：このサービスを管理するには、どうしたらよいですか

A：vCloud Air 上の vCloud Air Disaster Recovery 環境は、複数の方法で管理できます。次のオプションが含まれます。

1. vCloud Air のコンソール
2. vCloud Air API
3. vCloud Air Disaster Recovery の API 拡張機能 (テスト / フェイルオーバー ワークフローの自動化が可能)。保護対象の仮想マシンを自動的に登録することは不可
4. vCenter Server (vSphere Replication をローカルで管理するため)

Q：ユーザー自身が管理するものと、サービスが管理してくれるものを教えてください

A：vCloud Air Disaster Recovery は、ディザスタ リカバリの管理サービスではないので、お客様向け運用手順書の作成やメンテナンスは行いません。お客様は必要に応じて、フェイルオーバー テストやライブ リカバリの計画、スケジュールの作成、実行を行う必要があります。

Q：このサービスの詳細情報はどこで確認できますか

A：vCloud Air Disaster Recovery の詳細については、vcloud.vmware.com/jp/ を参照してください。

Q：サービスのデモを見ることはできますか

A：vCloud Air Disaster Recovery のデモをご確認いただくには、vcloud.vmware.com/jp/ で公開されているビデオをご覧ください。また、vCloud Air Disaster Recovery のサブスクリプションを 1 か月間で購入いただくことも可能です。最小のコストで運用環境を体験することができます。

Q：vCloud Air Disaster Recovery のサイズ別の価格はどこで確認できますか

A：予算の目安として、vcloud.vmware.com/jp/ で価格を確認できます。

